TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

イエスの7つの「私は…である」

「私は道であり、真理であり、命である」 ヨハネによる福音書 14:1-7

2026 年 9 月 5 日 & 6 日
神永 譲(ジョエル) 牧師

はじめに
TBC 渋谷キャンパスに集う皆さん、そしてスバ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会、TBC-三郷、TBC-ウエストトウキョウの兄弟姉妹、友人の皆さんにご挨拶いたします。
今週末、私たちはヨハネの福音書に記されている、イエスの 7 つの「私は～である」という宣言に焦点を当てています。このシリーズも、いよいよ 6 回目のメッセージに入りました。そして、私が説教を担当する機会が与えられるたびに、イエスの「I AM(私は～である)」という宣言を、一つずつ取り上げて共に学んでいきます。今回のメッセージでは、イエスが語られた「私は道であり、真理であり、命である。」という宣言を取り上げていきます。
では、まず祈りましょう。

イエスはこう宣言されました。
1.「私は命のパンである」(ヨハネ 6:35)
… 2025 年 12 月 27・28 日
2.「私は世の光である」(ヨハネ 8:12)
… 2026 年 1 月 31 日・2 月 1 日
3.「私は門である」(ヨハネ 10:9)
… 2026 年 2 月 21・22 日
4.「私は良い羊飼いである」(ヨハネ 10:11)
… 2026 年 5 月 2・3 日
5.「私は復活であり、命である」(ヨハネ 11:25–26)
… 2026 年 7 月 4・5 日
6.「私は道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14:6)
… 今日のメッセージ
7.「私はぶどうの木である」(ヨハネ 15:5)

はじめに考えたい問いかけ
始めるにあたって、いくつか問いかけたいことがあります。

今日、あなたは道に迷っている感じはないですか。自分の人生における「正しい道」を探し求めてはいませんか。今日、あなたは混乱してはいませんか。決断しようとしているのに、さまざまな声が入り混じって、どれが正しいのか分からず苦しんでいませんか。
今日、あなたは空しさを感じてはいませんか。外側は生きていても、内側が死んだように歩んでいませんか。
あなたが今経験していることに、あなたは決してひとりで向き合っているわけではありません。そして、すべてを自分ひとりで解決しようとする必要もありません。神は、あなたが「今どこにいるのか」、そして「自分の人生や将来について何を思っているのか」を、すべて正確にご存じです。今日、神がこのメッセージを通して、あなたに道を示し、あなたを真理へと導き、そしてあなたに命を与えてくださることが私の心からの祈りです。

「I AM(私は～である)」の簡単な背景
「I am(私は～である)」という語句は、ギリシア語の “ego eimi(エゴー・エイミ)” の直訳です。旧約聖書では、出エジプト記 3 章 13～15 節で、神ご自身がモーセを召し、イスラエルの民を奴隷状態から解放し、エジプトから導き出す際に、「私はある(I AM)」という御名をはっきりと示されました。新約聖書の中でイエスが自分自身に対してこの同じ名前を使うとき、イエスは文字通り、そして実際に自分自身を神と等しいものとし、自らが神であることを宣言しています。つまりイエスは、旧約聖書の時代に現れた「私はある」という存在が、今ここにいて、目の前であなたに話しかけているのだと、はっきりと語っているのです。

ヨハネ 14 章へとつながる背景
ヨハネ 14 章の本文を見る前に、まずその背景を少し描いておきたいと思います。

イエスは「復活と命」である方として、ラザロを死からよみがえらせました。この奇跡の後、祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスを殺そうと企てました (ヨハネ 11:25–26, 53)。
さらに祭司長たちは、ラザロも殺すと決めました。
このような脅威があるにもかかわらず、多くのユダヤ人は実際にイエスを信じました。その中には指導者たちも含まれていました。しかし彼らは、パリサイ人を恐れ、会堂から追放されることを恐れて、イエスについて告白しませんでした。
イエスが弟子たちを残して父のもとへ帰られるまでの時間がわずかであることを知っていたイエスは、弟子たちを深く愛しておられることを示すために、彼らの足を洗われました。足を洗うという働きは、家の中で最も身分の低いしもべ、しもべの中のしもべが担う仕事でした (ヨハネ 13:1–17)。
まもなく、ユダはイエスを裏切り、そしてまもなく、ペテロもイエスを否認することになります (ヨハネ 13:21–30, 36–38)。

ヨハネ 14 章 1～7 節の記述を見ていきましょう
背景を簡単に概観しましたので、ここからは本文をセクションごとに(一節ずつ)見ていきましょう。

ヨハネ 14:1–4 イエスは弟子たちを励まし、彼らの将来の行き先を保証される。

ここでイエスは弟子たちを励ましておられます。この張りつめた瞬間、これから起こることを思いながらも、イエスは、弟子たちのところへ歩み寄り、彼らを慰めようとされます。イエスは彼らの心を励まし、その思いを引き上げ、どれほど深く彼らを愛しておられるかを示しておられるのです。

先ほど見たように、弟子たちはイエスと共にいるがゆえに、パリサイ人たちの標的となり、非常に不安定で危険な立場に置かれていました。彼らの心配事は、私たちが普段抱えるような「何を食べるか、何を着るか、どこで寝るか、どこで働くか」あるいは、健康・経済・人間関係・奉仕の問題といった 日常的な悩みではありませんでした。
神を信じていない人が、悩みや問題を抱えている人に最初にこう語るかもしれません。それからこんな風に付け足すこともあるでしょう。気を紛らわせるために何か別のことをしてみたら、っと。このような対処法は、実際的で人間的です。間違っているわけではありませんが、不十分なのです。最も大切な部分が欠けています。

「神を信じ、また私(イエス)を信じなさい。」他の訳では、「神を信頼しなさい。私をも信頼しなさい。」と表現されています。

イエスは、弟子たちが困難を乗り越えるための まったく新しい視点を示されました。この新しいものの見方は、永遠という視点に立った考え方です。イエスは、この堕落し壊れた世界の問題が本当の意味で解決されるのは、永遠の希望によってのみ可能であることをよくご存じでした。イエスは弟子たちに言いました。そして、行ってまた戻ってくるし、どこへ行くのかその道を弟子たちが知っているとも語られます。しかし弟子たちは、イエスが何を意味しているのかまったく分かりません。イエスの言葉の意味を理解できないでいたのです。

ヨハネ 14:5 トマスがイエスに、どこへ行かれるのか分からないと告げる場面

弟子たちはすでに約三年間イエスと共に歩んできました。それにもかかわらず、トマスによれば、彼らはイエスがどこへ向かっておられるのか、そしてその道筋も理解していませんでした。皆さんはどうかわかりませんが、私はトマスの正直さとへりくだりに心から励まされます。知っているふりをするよりも、分からないことを正直に認めるほうがずっと良いのですが、実際のところ、私たちはそうできません。だからこそ、プライドを脇に置き、知らないときは恥じることなく尋ねましょう。

ヨハネ 14:6–7 イエスはトマスに「私は道・真理・命」であると答えられる。

イエスはためらうことなく、トマスに答えられました。それでは、これらの表現を一つずつ見ていきましょう。

「私は道である」
ギリシャ語の「hodos(ホドス)」という語は、「道」「道路」「そこへ至るための手段」という意味を持っています。イエスによれば、「道」とは、一人の人物つまりイエスご自身を指していることが明らかです。「道」とは物やどこかへ通じる通路ではないということなのです。
たとえば、あなたが東京に来たばかりで、今回が初めての訪問だとします。 昨日到着して、今朝目を覚ますと、東京に住む友人からメッセージが届いていて、「今日、東京バプテスト教会に来ませんか」と誘われたとします。友人は教会の住所を送り、渋谷まで電車で来て、そこからは携帯電話のナビを使って 複雑な道順をたどるように勧めてくれました。ところが、渋谷に着いた瞬間、あなたの携帯電話の電源が切れてしまいます。そこであなたは思い切って、渋谷から教会までの行き方を誰かに尋ねることにします。住所を見せると、その人は日本語と英語をまぜながら 道順を説明し始めます。

「タマガワドオリ 246 をマッスグ 500 メートルほど進んで、ヒダリに曲がってヤマテドオリに入ります。そこからマッスグ歩いて、マレーシアタイシカンの前を通ります。さらに 300 メートルくらい歩くと、キョウカイに着きます。ダイジョウウブ？ ワカリマシタカ？ OK！」

それで、あなたはますます混乱します。どうやって教会まで行けばいいのだろう？ その様子を見たその人は、あなたがこのままではたどり着けないことに気づきます。そしてこう言います。「分かりました。じゃあ、私と一緒に来てください。教会まで連れていきます」その瞬間、その人はあなたにとって “道” そのもの になります。 もう複雑な道順を説明する人ではなくなるのです。
神学者であり著述家のウィリアム・バークレーは、的確にこう指摘しています。「これこそ、イエスが私たちにしてくださることです。 イエスは助言や道順だけを与えるのではありません。私たちの手を取って導き、力づけ、日々個人的に導いてくださいます。イエスは道について教えるのではなく、ご自身が〝道〟なのです。」

「私は真理である」
ギリシャ語の「aletheia(アレーテイア)」は、「真理」「神が人に示された真理」という意味を持っています。真理とは「人格」であり、イエスご自身がその真理なのだと、イエスは明言されています。真理は物でも理念ではなく、正義や自由意志のような哲学的な概念でもないのです。
私は、ウィリアム・バークレーがイエスを「真理」として語る言葉がとても好きです。
「自分の教えた真理を“生きて体現した”教師は、イエス以外にいません。多くの人は『私は真理を教えた』と言うことはできます。しかし『私は真理そのものだ』と言えるのは、イエスだけです。イエスの偉大さは、道徳的完全さという理想が彼のうちに最も高く示されているだけでなく、その完全さが彼の生涯の中で本当に形となって現れているところにあります。

「私は命である」
ギリシャ語の “zoe(ゾーエ)” は、「命」「生きている存在」「命の源」という意味を持っています。「命と、命の源は“人格”であり、イエスご自身がそのお方であることが、はっきりと分かります。 命とは、どこか秘密の場所に行けば手に入る“もの”や“物体”ではありません。」

イエスを「命」と呼ぶことについて、アーサー・W・ピンクはこう書いています。
「聖書全体は、自然のままの人間が霊的には“命を持たない”状態にあることを、厳粛に証ししている……人は、この世の事がらには生きて反応しますが、天に属する事がらには死んだ状態です。キリストの外にいる人は存在してはい

るものの、霊的な命を持っていません。放蕩息子が遠い国から帰ってきたとき、父はこう言いました。『この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。』(ルカ 15:24)。キリストは、そのような人々を生かすことがおできになります。実際、イエスはご自分のもとに来るすべての人に命を与えると約束しておられます。」(出典:ジェームズ・M・ボイス『ヨハネの福音書』1079)
イエスが「命」であるということは、イエスが「命の源」であるということです。だから、イエスを信じる者はだれもが「命」を持つのです。

イエスは言われます。旧約でご自身を「I AM(私は～である)」と示された父なる神は、新約において同じく「I AM」と名乗られた御子イエスその方でもあります。御子を知ることは、同時に父を知ることでもあるのです。

マイケル・コプリッツは、ここでイエスが語られた言葉の背景をこう説明しています。
「イエスの時代、父と息子の間には特別な絆がありました。その絆は非常に深く、父は自分の秘密の多くを息子にためらうことなく打ち明けるほどでした。もし他の誰かが家族の秘密について尋ねるなら、答えるべき人は息子でした。イエスがここで弟子たちに伝えられたのは、まさにそのことです。つまり、イエスと御父との間にある深い結びつきを示し、確証する言葉だったのです」(出典:Willem H. Oliver An Alternative Look at John 14:6)

ヨハネ 14:1–7 の 5 つの実践ポイント
1.私たちは、父なる神と御子イエスを信頼し、永遠の視点をもって心の悩みや不安を乗り越えるべきです(14:1–4)。
イエスが私たちのために備えてくださった将来の現実に目を向けるとき、今の困難を無視することなく、勝利の歩みをし、神をより深く知り、神との関係を成長させることができます。

あなたの心は今、悩んでいますか。生活のことで今不安を抱えていますか。

2.私たちは、イエスが私たちのために何をしてくださるか以上に、イエスというお方そのものを深く知ることを求めるべきです。
トマスは弟子たちを代表して話しましたが、彼が見失っていたのは「道」という概念ではなく、「道であるお方」すなわちイエスご自身でした。同じように、私たちも人を「自分に何をしてくれるか」で判断するのではなく、その人自身を知ろうとする姿勢を大切にすべきです(14:5)。
あなたの周りに、自分の願いを叶えるための「手段」としてではなく、一人の人格として向き合うべき人はいませんか。

3.私たちはイエスと個人的な関係を持つべきです。なぜなら、イエスというお方が、私たちと個人的に関わってくださるからです(14:6)。
キリスト教の本質は、御子イエスを通じて、神と個人的な関係を持つことにあります。あなたは神と個人的な関係を持っていますか？ 神に語りかけていますか？ 神についての知識を持っているだけでなく、神ご自身を人格として知っていますか？

クリスチャンとして私たちは、神と個人的な関係を持つという特権を与えられています。しかし、私たちの地域社会にも、私たちの街にも、そしてこの国にも、その特権をまだ知らない人々が数えきれないほどいます。だからこそTBC では、神が機会を開いてくださるたびに、福音を分かち合おうと努めているのです。

TBC とエマニュエル・イーニッド・バプテスト教会による地域へのアウトリーチ活動の機会
10 月 10 日から 14 日まで行われる TBC & エマニュエル・イーニッド・バプテスト教会のアウトリーチへの参加を、あなたとスモールグループの皆さんにぜひ祈りつつご検討いただきたいと思います。
スケジュールの詳細については、メッセージアウトラインに添付したチラシをご覧ください。毎日参加していただけたらもちろん素晴らしいことですが、必ずしも毎日来る必要はありません。これまでに、すでに二つのスモールグループが参加の意向を示してくれています。あなたとスモールグループの皆さんも、ご一緒に参加してみませんか。

4.私たちは、互いにもっと個人的につながり合うべきです。
私たちの社会は、SNS 中心の文化の中で、互いのつながりが以前よりも非人格的で表面的なものになりつつあります。家庭の中でさえ、食事に集まるときでさえただメッセージを送って呼びかけるだけ、ということがあります。イエスの人間性は、私たちをより「人格的な交わり」へと向かわせるはずです。そして、単に私たちを「利用する」だけの存在ではなく、私たちのことを「本当に理解してくれる誰か」を切望する、私たちの内なる虚しさを満たしてくれるものなのです(14:6)。

AI の時代において、ほぼすべてのものが人間味を失いつつあります。AI は教会や人類にとって大きな恩恵をもたらすものです。しかし、AI に私たちが使われるのではなく、むしろ神の栄光のため、そして福音のために、私たちが AI を活用していこうではありませんか。主イエスの個人的な統治のもとにおける、私たち互いの真実で人格的な結びつきは、AI の世界に対して力強い証しとなるでしょう。その世界では、人々の虚しさが物質(オブジェクト)によって完全に満たされることはありません。私たち人間は神の似姿として造られ、感情、欲望、そしてニーズを持っていますが、それらは神がご自身の教会を通してのみ満たすことができるものなのです。

端末を使って食事を注文する
最近、食事を注文するときに、お店が専用の端末やタブレットを使わせるようになってきていることに気づきましたか。もう店員が注文を取りに来ないお店も増えています。場所によっては、ロボットが料理を運んでくるところさえあります。
数週間前、シンシアと私は、よく行くお気に入りのレストランで食事と休息を楽しんでいました。テーブルの上にはQR コードが置かれていて、自分のスマートフォンで読み

取って注文する仕組みになっていました。そこで私たちも読み取って注文したのですが、本当に注文が送信されたのか、確信が持てませんでした。スタッフの方が水を持ってきてくれたとき、私は「注文はちゃんと通っていますか？」と尋ねました。すると、彼女は「はい」と答えてくれました。

その約 10 分後、シンシアの料理が運ばれてきました。私は「優しい夫として」彼女に「先に食べていいよ」と言いました。しかし、5 分…10 分…そして 20 分が過ぎても、私の “とんかつ定食” は一向に来ませんでした。私はもう一度スマホで注文し直すのは嫌でした。問題を解決するためには、話ができる“人”が必要だと感じたのです。そこでスタッフの方を呼んで確認しました。彼女はキッチンに行って状況を調べ、しばらくして戻ってきて、「注文が通っていませんでした」と教えてくれました。そのとき、彼女つまり実際に目の前にいる「人」が、私の注文を直接受けてくれたのです。

私たちすべてに共通する最大の問題、罪の問題を解決するためには、誰か「人」が必要でした。 私やあなたの代わりに十字架にかけられ、本来私たちが受けるべき死を、罰を、そして父なる神から見捨てられる苦しみを身代わりに受けてくださる「人」が必要だったのです。神の御子イエスは、そのために人として来られました。あなたのために、そして私のために、「人」として救いを成し遂げるために来てくださったのです。

私たちは、イエスこそが父なる神への「唯一の道」である、つまり私たちを父のもとへと導くことができる唯一のお方であるとして、イエスを受け入れるべきです。神へと導けると主張する人がいるとしても、そのような主張は完全に誤っています。 彼らが示す道は、すべて偽りの道です。どれほど有名であっても、どれほど宗教的に立派に見えても、どれほど聖なる人物のように思えても、彼らはイエスの代わりになることはできません。父なる神のもとへ本当に私たちを導くことができるのは、イエスただお一人です。イエスこそが、「世の罪を取り除く神の小羊だ。」(ヨハネ 1:29)となる資格と力を 唯一持っておられる方です。あなたは確信しているでしょうか。イエスこそが、父なる神のもとへあなたを導く唯一のお方であり、真理のうちを歩ませ、命を与えてくださる唯一のお方であることを。

祈りましょう。

神永　譲 （ジョエル）
東京バプテスト教会
2026年9月5－6日

グッドニュース・クラスは毎週日曜 11 時からです。イエスの福音をより深く学びたい方のためのクラスです。
JOY カフェは、毎週日曜日、午前 9 時と午前 11 時の礼拝後にオープンしています。福音の分かち合いと祈りのための場です。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://gotbc.org/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
https://gotbc.org/tbclife

スモールグループ参加申込み

https://gotbc.org/sgsu

オンライン献金

https://jp.tokyobaptist.org/献金

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg3426jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 6 日(日)1:00 pm ～ 5:00 pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
9 月 20(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

全クラス申し込み:
gotbc.org/classes